



新教出版社 出版通信

2019年
12月

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 Fax: 03-3260-6198
ホームページ: <http://www.shinkyo-pb.com>

著者 佐竹 明 (さたけ・あきら)

1929年生まれ。東京大学教養学部、同大学院(西洋古典学専攻)を経て、ハイデルベルク大学、チューリヒ大学神学部に留学。ハイデルベルク大学にて神学博士。青山学院大学教授、広島大学教授、フェリス女学院大学教授、同学長を歴任。

2011年、ヨハネ黙示録の研究によって恩賜賞・学士院賞受賞。

第二コリント書

佐竹明 著 (広島大学・フェリス女学院大学名誉教授)

10—13章

【現代新約注解全書】

11月25日発売

佐竹明氏の第二コリント注解、続刊！

世界最高水準の第二コリント書注解、待望の続刊。第一回配本の8—9章(パウロが献金問題を詳しく論じた興味深い部分)に続き、第二回配本は第二コリント書の終結部。「愚か」や「弱さ」をめぐるパウロの信仰思想の核心は何か。精緻を極めた注解によって迫る。次回配本は1—7章で数年後となる見通し。

●佐竹明氏の既刊書

ピリピ人への手紙

◆A5判・上製・302頁・本体4800円

ガラテヤ人への手紙

◆A5判・上製・617頁・本体6600円

第二コリント書 8—9章

◆A5判・上製・390頁・本体7000円

ヨハネの黙示録 上巻 序説

◆A5判・上製・260頁・本体4800円

ヨハネの黙示録 中巻 1—11章

◆A5判・上製・475頁・本体8500円

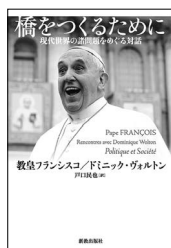
ヨハネの黙示録 下巻 12—22章

◆A5判・上製・484頁・本体8500円

使徒パウロ 伝道にかけた生涯 新版

◆四六判・並製・273頁・本体2500円

●今年 4 月刊行



教皇が自らの社会観を率直に吐露 橋をつくるために

現代世界の諸問題をめぐる対話

◆四六判・本体 2600 円

教皇フランシスコ、ドミニック・ヴォルトン／戸口民也訳

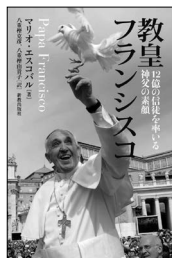
戦争、貧困、環境破壊、難民、文化的アイデンティティと伝統、異なる者同士のコミュニケーション、そして教会のあり方等々のテーマをめぐり、フランスの著名な社会学者が1年間12回にわたって教皇に行ったロングインタビュー。しかしここには、単なるインタビューに留まらぬ、真に対話の名に値する言葉のやり取りがあり、読む者はたちまち引き込まれるであろう。教皇を知る絶好の書。

12 億の信徒を率いる神父の素顔！ 教皇フランシスコ

マリオ・エスコバル著 八重樫克彦・八重樫由貴子訳

◆四六判・本体 1400 円

教会問題に定評あるスペイン人ジャーナリストが書き下ろした公平な評伝。12億の信徒の精神的指導者を知り、今後の国際情勢を占う上でも貴重な書。生い立ちから修学時代、軍政期の司教としての働き、ついには教皇に就任するまでの半生を詳しく記述。その人柄を伝える。ファン・アイダル神父（東京のイエズス会神学院院長）が日本語版だけに寄稿した「先生の思い出」を収録。



アルゼンチン時代の貴重なインタビュー 教皇フランシスコとの対話

自らのことばで語る生活と意見

◆四六判・本体 1500 円

F. アンブロジーッティ、S. ルビン著／八重樫克彦・八重樫由貴子訳

高位聖職者となっても公用車を使わずバスや地下鉄での移動を好んだ人柄がにじみ出る、枢機卿時代の貴重な証言。家族、司祭への道のり、自らの信仰、教会の抱える課題、そして祖国アルゼンチンの問題を本音で語る。一人一人の魂に慈愛の目を注ぐと同時に、社会と国家の問題にも熱い思いを寄せる姿勢が鮮明に伝わる。

アルゼンチンの国民的叙事詩『マルティン・フィエロ』をめぐる異色の講演も収録する。



在日本韓国YMCA編

未完の独立宣言

2・8朝鮮独立宣言から100年

「2・8独立宣言」が東京朝鮮YMCAから発せられ、3・1独立運動の導火線となつてから今年が100年。この宣言の歴史的意義やキリスト教との関係、また日韓の市民たちが今後そこから何を学ばべきかをめぐり、多くの論者が多面的に考究する。

◆四六判・本体2500円

芦名定道著

現代神学の冒険

新しい海図を求めて

『福音と世界』に3年にわたつて連載され話題を呼んだ論考の単行本化。断片化・局在化を深めて見通し難い現代神学の動向を「拡張された自然神学」という観点から鋭利に分析し、神学が真に取り組むべき課題群を提示した必読の書。

◆A5判・予価3200円

ヴォルフガング・フリーバー著／佐藤司郎・本部尚志・小島大造訳

正義と法

キリスト教法倫理の基本線「仮題」

われわれの全生活に影響を及ぼす法。正しい法とは何か、法と倫理あるいは正義と法はいかに関係するのか。法の神学的基礎を探り、人權を最重要価値として、複雑な現代世界における法治国家のあるべき姿を論じる。著者はキリスト教社会倫理の泰斗、ドイツ福音主義教会監督、またWCCの指導的神学者として活躍した。待望の邦訳。

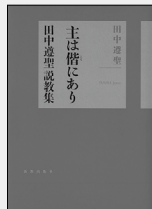
◆A5判・予価9500円

● 10月に出た本と雑誌

主は偕にあり

田中遵聖説教集

田中遵聖著／神藏美子解説



「十字架は奪ってくる」。直木賞作家・田中小実昌の父にして、独立教会「アサ会」の牧師であった田中遵聖。長らく眠っていたその礼拝説教集をここに完全復刊。小説「アメン父」「ポロポロ」などをつづ

て断片的に知られるのみだった無類の信仰が、「受け」「奪い」「直接する」など独自の表現とともに蘇る。あらたに写真家・神藏美子による解説を収録するほか、若い小実昌と遵聖の姿など、カラー口絵4頁を付す。

◆A5判・本体3000円

〔重版出来〕

新しい聖書の学び 第5刷!

2009年刊行以来広く読まれている斬新な聖書入門

山口里子著

◆A5判・本体1900円

福音と世界

◆税込647円

11月号

天皇制を拒否するために

寄稿者…守中高明、小泉義之、牟田和恵、綿野恵太、太田昌国、友常勉／土井健司、マニユエル・ヤン、山口政隆、辻学、内田樹、石井光太、松本あずさ、長谷川修一、佐藤優

編集部から

●大ヒット中の『JOKER』や鬼才ジョーダン・ピールの最新作『us』をはじめ、この秋も新作映画が見逃せませんなかでも、個人的な一押しは『典座』です。典座とは禅宗寺院の役職のひとつで、寺の僧侶たちの食事を用意する人のこと。これをタイトルとした同作では、全国曹洞宗青年会の制作、インディペンデント映画集団・空族の監督のもと、三十一後の日本社会における仏教そして信仰の役割がドラマ仕立てで描かれ、ラッパ・NORIKIYOによる挿入歌がそこに独特の浮遊感をもたします。ただ、精進料理教室をつうじて布教を試みる僧侶や、福島沿岸部で仮設住宅の訪問をつづけるその兄弟子を中心に据えたストーリーからは、仏教界の挑戦だけでなく、時代の主潮にどのように応えるかという苦悩がひしひしと伝わってくるように思いました。そのうえでおもしろいのは、劇中で僧侶を演じているのが、プロの役者ではなく本物の僧侶たちだということです。これはリアリティを追求する空族の撮影スタイルを踏襲したのですが、修行や読経の場面など、まさに「本物」ならではの緊張感を画面にもたらししていました。当初は賛否両論あったとも聞きますが、多くの寺院の協賛のもとこ

のような映画が作られたことには、自己批判をつづけつつも仏の教えの可能性を感じてやまない曹洞宗の意気込みを感じます。さて、では、キリスト教は？これから全国順次公開予定の同作を見て、自らに問いかけてみるのもよいかもしれません。(堀)

●夏前に一度ご紹介した渡辺禎雄版画カレンダーですが、時季となりましたので再度のご案内です。テーマは「香油で足を拭う」。薄いブルーと黄色の鮮烈なアクセントが、イエスとマリアの一瞬のふれあいを緊張感をもって際立たせます。制止する弟子たちは描かれず、見守るのはただ天の使いのみ。一九七九年の傑作です。お求めは最寄りのキリスト教書店まで。(二枚本体五〇〇円)(小林)



福音と世界

2019年
12

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8460円

特集…ネオリベリズム再考

電車をとらう！政治的実在論のために

白石嘉治

女性の貧困とネオリベリズム — 堅田香緒里

維新政治下の大阪再開発と金ヶ崎 — 生田武志

大学とネオリベリズム — 大野英士

多文化共生は排外主義を抑制しうるか

塩原良和

「性の多様性」時代とネオリベリズム

河口和也

【書評】『ヒップホップ・レザレクション』…浜邦彦

【映画】『テルアビブ・オン・ファイア』…編集部

【好評連載より】

◆教父学入門 4 ……土井健司

◆バビロンの路上で 9 ……マユエル・ヤン

◆神の酒 9 ……石井光太

◆新約釈義 テトス書 9 ……辻学

◆福音書記者たちの饗宴 12 ……松本あずさ

◆遺跡が語る聖書の世界 12 ……長谷川修一

◆レヴィナスの時間論 56 ……内田樹

◆ことばの履歴書 69 (最終回) ……佐藤優